

第一新聞

発行所
第一未来館
Tel:088-655-5001

第153号

謹賀新年

新年の挨拶「あけましておめでとう」

新年あけましておめでとうといいますが、今年は巳年(みとし)。蛇は古来より「再生」や「成長」を象徴する存在です。脱皮を繰り返して成長する蛇のように、私たちも新しい気づきを得ながら成長していきたいものです。

さて、「発明」という言葉があります。発明は今までにない「もの」を生み出すことです。しかし、「地球上に存在しない物質を使って」「もの」を作るのはほぼ不可能です。つまり、今までにない「もの」を作り出すためには、既に存在するものの見方を変え、新たな価値や使い方を「発見」しなければなりません。自分が今まで重要と思っていなかったことや、当たり前すぎて見過ごしていたことの中に、その新たな発見は隠れているのではないのでしょうか。そのためには、様々な視点から見たり、視野を広げたり狭めたりして見ることで、今まで価値がないと考えていたことへの価値に「気づく」ことが重要です。

勉強においても同じことが言えます。全ての教科において重要なことは授業中に出てきます。ですから、授業中に先生の言葉や問題の背景から、学習での「気づき」を磨くことが大切です。さらに、家庭での演習の中から、あるいは普段の生活の中の何気ない出来事からも学習の「気づき」に出会うことがあります。この「気づき」を積み重ねることで、学力は大きく向上するのです。しかし、「気づき」は受け身では得られません。能動的に学び、自分の課題を四六時中何気なく意識していることが、新たな「気づき」につながるのです。

大きく成長します。この一年、皆さんが多くの「気づき」を得られるよう、塾としても全力でサポートしていきます。巳年にふさわしく、何度でも成長できる自分を目指して、一緒に頑張りましょう！



(日下先生)

擬人化する人間

今回は個人的なお話を少ししたいと思います。実は先日、私の友人の藤井義允がついに単著(一人だけで書いた本)を出版しました。それは『擬人化する人間——脱人間主義的文学プログラム』(朝日新聞出版)という本です。内容は小説ではなく、皆さんが聞き慣れないジャンルであろう文芸評論です。ピンと来ない人が多いでしょうから、以下本文を引用。

はじめに——人間ではない「私」
自分の存在の希薄さを常に感じながら生きてきた。

感情も、感覚も、何もかも。僕の中にあるものは、まるで全て作りもののようにではないか。そんな違和感を抱いて過ごしていた。

しかし厄介なことに、それでも悲しみや怒りや嬉しさというような人間的な感情は確然と存在しており、矛盾する二つの感覚を抱えていた。つまり「人間らしさを持った「人間」ではないもの——「人擬き」の感覚が僕にはある。

一般的にイメージされる「人間」とは離れた場所に存在しているような気がしていた。それがどこに起因するのか。長い間、僕は自分自身の個人的な性質からくるものだと思っていた。それゆえその感覚を自分の中に留めてきた。時に「現実」との折り合いがつかず、そのせいで辛い思いをした覚えもある。

だから、そんな、人間ではない人間らしさを持つ想像力の作品に気持ちを揺さぶられた。そうした作品

を発表している作家が現在では多く出てきている。

そんな作品を読み解きながら、僕自身は多分「自分とは何か」を考えていたのだと思う。どうしようもなく「人間」であるにもかかわらず、どうしようもなく「偽物」である感覚。この二つの往還の中で逡巡があった。人間を知るために人間が書いた言葉を求めていた。そこに「本物」があるのではないかと思つて。

そして様々な表現者たちの言葉に触れるにつれて、実はこれは僕だけの感覚ではないのかも知れないと次第に思つたようになった。

近年、あらゆる創作物において「人間ではない存在」というイメージは多くなっている。

幽霊、機械、偽物——虚構。いずれにせよ「本物」ではないものの。現在、僕と同様の感覚を持った表現者たちが徐々に現れ始めるように感じているのだ。

そのような感性が生まれる背景には、もしかしたら僕たちが生きていく時代の空気のようなものが関係しているのかもしれない。テキストピア。今、そんな世界が作品の中で多く現れ始めている。今の日本に蔓延するのは「暗い」雰囲気だ。僕たちを押さえつけるような暗いもの。フィクションはそんな雰囲気や反映している。

要するに複数の現代小説を扱いながら、現代社会を読み解くといった内容です。興味を持っていただけたら、是非友人のデビュー作を「一読」いただければ私にとっても幸いです。

(宇都宮先生)

最後の大きな休み

新年あけましておめでとうといいますが、2025年がいよいよ幕開けとなりました。

冬期講習会で真剣に学習した内容をしっかりと定着させ、今後の勉強やテストなどに生かしていきたいですね。

また、小6・中3生の子供たちが

にとつては受験が目前に迫ってきています。まずは体調管理を一番に考えて、食事・睡眠などをしっかりと、風邪やインフルエンザにならないように心がけましょう。

冬期講習会でのみんなの全身全霊の努力は本物だと確信しています。受験まで培った知識や経験は最大の武器になります。受験本番で緊張がゼロの人はいないかもしれませんが、これまでみんなが積み上げてきたものを自信に変えて、100%の力を出し切ってきてください。徳島第一ゼミの先生全員、心より応援しています。

頑張り、徳島第一ゼミ生!!!
(竹田先生)



ゼミ/中学部だより

さて、2024/25年冬期講習会が始まり、特に中3生の皆さんは冬休み明け早々にある第3回基礎学力テストへの追い込みを現在どんと進んでいることと思います。自分の高校進路を決定させる大きな指標となるものが基礎学力テストですので、勉強を積み重ねて下さいね。そこで、これからの時期にやっておいてほしい勉強のアドバイスをお伝えします。

まず英語は日々の基本文法・英単語の確認はもちろんのこと、原稿用紙一枚程度の長文を毎日コツコツ読んで、英語の読解力を付けていきましょう。

数学は小問集合が100点中40点を占めているので、それらを中心に正確に解くかが鍵になります。テスト形式の問題集や冬期講習会のテキストを活用して、ケアレスミスのないようにしておきましょう。

国語については、新聞等の内容から175字以上200字以内で要約できるようにしたり、国語の文章問題の内容から自分はその

うに考えているか考察を書いてみたりと、10分ほどの制限時間を設けて書く訓練をおこなう。そして、読解力を鍛えるために文章問題の内容や要点まとめにもチャレンジしてみよう。

理科は、基礎内容の徹底は「5科のまとめ」や「整理と対策」、そして「keyワーク」でしっかりと復習しておくことはもちろんのこと、実験や観察の内容が入った問題や計算問題にもチャレンジしておきましょう。

最後に社会は、基本的な流れは理科と同様ですが、最近では資料の読み取りと基礎知識を活用する記述問題が多く出題されるので、統計資料問題、年表問題を特に確認しておくようにして下さい。

これからの時期、高校受験に挑む中3生の皆さんに向けた勉強応援のメッセージを送ってみよう。悔いのないよう努めて下さい。

最後に中学生・現小6生(新中1生)の皆さんに共通してお伝えしたいことがあります。それは「自分自身で積み上げた努力は絶対に実る!」ということです。ときには思い切り晴らしをしてもいいのですよ。ただ長すぎたはいけません。心と体を時にリフレッシュして、目標へ取り組み、そして新年度に向けて先取り学習を進めていきましょう。私達は「精一杯の君たち」を応援しています。

(工藤先生)



笑顔で過ごすために

明けましておめでとうといいますが、皆さん、良い年越しを過ごせましたか。今年一年もみんな健康で楽しく健康に過ごしましょうね。

一年を良い年にするためには笑顔が欠かせませんが、どんな時でも朗らかに笑っているというのは

なかなか難しいことです。悲しいときにまで無理に笑う必要はなく、泣きたい時には泣けばいいと思います。では怒りを感じたときはどうでしょうか。新年早々こんな話をするのはよくないかもしれませんが、怒りのままに感情をぶつけて不用意に人を傷つけることのないように、怒りっぽい自分のある人は今年の目標をアンガーマネジメントにしてみてもいいかもしれません。

「短気は損気」という言葉がありますが、実際に怒りっぽい人は損をする人が多いです。まず人から敬遠されやすいので、信頼関係を築くのが難しいというデメリットがあります。また、すぐに怒るということは、ストレスを感じやすいということでもあります。さらに、トレーニングをしても人より筋肉が付きにくく、ダイエットしても痩せにくいのだとかなんとか。本人も四六時中イライラしていても楽しくないでしょうし、とにかく悪いことはかりですね。

では怒りを感じた時にどうしたらいいのかですが、たとえば「怒って何かを言う前に、深呼吸して6秒数えると頭が冷える」という方法があります。個人的にはこれを実践しても、変わらず怒りを感じたので効果はありませんでした(笑)。「一旦その場を離れ、怒りが収まるまで別の場所にいる」という方法もあります。その他、そもそも怒りを感じずに済むように「不安や悩みは人に相談して解決を図る」、「多くの趣味や気晴らしを見つめる」など、意識的に穏やかにいられる工夫をしていくことも大切です。

「笑門には福来る」というように、笑って幸せを感じられる一年にしたいものです。

(今岡先生)

